

社会資本整備審議会 道路分科会
第3回 北陸地方小委員会

議事要旨

1. 日 時 平成23年11月9日(水) 10:00~11:30
2. 場 所 北陸地方整備局 長岡国道事務所 4階 大会議室
3. 出席者

[委員長]

まるやま きゅういち
丸山 久一 長岡技術科学大学 環境・建設系 教授

[委員] 敬称略・五十音順

いしぐろ あつこ
石黒 厚子 (財)北陸経済研究所地域開発部 主任研究員

おおかわ ひでお
大川 秀雄 新潟大学 工学部 建設学科 教授

きのの かずし
佐野 可寸志 長岡技術科学大学 環境・建設系 准教授

4. 議 事 内 容

(1) 挨拶

- ・北陸地方整備局 道路部長

(2) 議題

- ・平成24年度新規事業候補箇所の新規事業採択時評価について

(3) 審議結果

- ・平成24年度新規事業候補箇所の新規採択時評価について事務局より説明があり、慎重審議の結果、原案は妥当と判断された。

(4) 議事要旨

- ・ B/Cは、そこに住んでいる人が少ないと高くはならない。B/Cにとらわれず、そこに住んでいる人の、「一人あたり」というような生活の質を考える観点が必要と考える。
- ・ 防災の観点の評価手法も採り入れていく必要がある。
- ・ 平成11年度に都市計画決定されて、まだ事業化していないところは早く整備すべきと考える。また、計画段階評価に着手した日本海沿岸東北自動車道(朝日～温海)については、この度の東日本大震災の対応で果たした道路の役割を考えても早期に整備すべき。
- ・ 中央分離帯に頑丈な構造物の無い2車線区間は、特にトンネル内での危険性が高く感じる。予算も考慮の上で、中央分離帯を頑丈な構造とすれば事故が減ると思われる。
- ・ 暫定2車線のところの完成4車線化を、是非整備していただきたい。
- ・ 道路のこれまでの評価は3便益を基本とし、その他の効果は参考程度とすることが主流であり、時間短縮や事故削減などの効果は大事であるが、緊急輸送や高次医療への速達性も重要な評価であり、今回の輪島道路(Ⅱ期)についても、評価のポイントとなる。
- ・ 人が住んでいる限り、道路をつないで、全国での生活の条件を同じようにしていくことが大事。
- ・ 貨幣換算化によるB/Cは都市圏での優位性を見るためには有効と考えるが今回のような地方の端部にある地域では、その評価手法はふさわしくない。
- ・ 高速道路については、定時性・安全性の面から4車線整備の効果が高い。
- ・ やむを得ず暫定2車線整備とする場合は、しっかりとした中央分離帯をつくるべきであり、特に、北陸では冬期の路面凍結などによる対向車線への飛び出しなども考える必要がある。